

ダム反対側

国土交通省・推進側

現況河道流量（現況河道流下能力）

(人吉地点)

毎秒4,300トン

- ・現況河道で流下可能な洪水流量を不等流計算により計算

毎秒5,400トン

- ・現状でも堤防天端まで許容した場合（設計余裕高分の洪水を流れるものとして見込んでいる。）

(八代地点)

毎秒9,000トン

- ・八代地区では過去に6,500~7,000トン/秒の洪水が5回流下している。そのうち昭和57年と平成7年の洪水痕跡を見ると、計画高水位に対して、1.5m以上も低いところを流れており十分余裕がある。
- ・痕跡水位から考えて、8,600トン/秒が流れても計画高水位を下回することは確実である。

(人吉地点)

毎秒3,900トン

- ・平水位以上の掘削等の河床整正を行った場合の評価
- ・法令どおり、余裕高をとった場合の評価

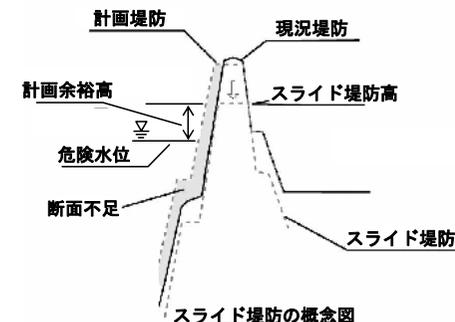
(八代地点)

毎秒6,900トン

- ・堤防の断面不足等を考慮し、堤防の安全性を評価

※ スライド堤防

計画堤防の断面を現況堤防の断面内に包含されるまで引き下げ（スライド）したときの堤防のこと。
現況堤防の断面が、高さや幅（厚み）において計画堤防の断面を満足しない場合に、現況堤防の流下能力を評価するために用いられる。



計画河道流量（計画高水流量）

(人吉地点)

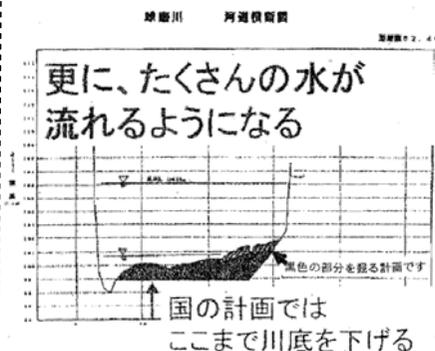
毎秒5,400トン

- ・計画河床高までの河床掘削を行い、未整備の堤防を整備した場合、5,400トンが流下

(八代地点)

毎秒8,600トン以上

- ・現在の堤防を強化することで80年に1回の洪水に対応可能



(人吉地点)

毎秒4,000トン

- ・昭和40年代の計画は、環境調査等があまり実施されていない頃に設定した断面
- ・舟下りや環境への影響を配慮しつつ、大規模な岩掘削を行うことは技術的に困難であるため、可能な範囲（平水位以上の河岸）まで掘削を行っても、4,000トンが限界

(八代地点)

毎秒7,000トン

- ・川辺川ダムと市房ダムによる洪水調節により、その結果、萩原地点で7,000トンを設定

